

3学期終業式あいさつ

おはようございます。それぞれの学年が終わろうとしています。この1年を振り返って、今どのような気持ちですか。しっかりとした目標を持ち、その実現のための生活を送れた人もいます。反省しなくてはならない生活を送ってしまった人もいます。そうなったのは誰のせいでもありません。決めたのは皆さん自身です。これからの生活をしっかりと見直してください。

さて、私が皆さんの前で話すのは、もうあまり機会がないので、皆さんに一番望んでいることを、2つ話したいと思います。

1つ目は、「夢を諦めない」ということについてです。皆さんは、これから生活していく中でいろいろな苦しい場面に直面すると思います。誰でも楽な方を選びたいものです。でも、楽な方は何も考えようとせず、自分を伸ばしてくれません。どうやったら苦しい場面を乗り越えられるかを考えて、自分を成長させて欲しいのです。人生には、いくつも自分自身で選ばなければならない分岐点があります。そんな時、しんどいことに前向きに挑戦して、それを楽しみや喜びに変えていく人生を送って欲しいのです。

先日、ピョンチャンパラリンピックが終わりましたが、スノーボードで金メダルを獲得した成田緑夢選手は小学校の時から、スノーボードやトランポリンで活躍し世界を目指していました。しかし、19歳の時にトランポリン練習中の事故により左足に障害が残りました。その時の彼の気持ちを考えてください。世界一になるという夢が遠ざかってしまいました。すごくショックだったに違いありません。

しかし、彼は障害に負けず前を向いて、競技に復帰しました。さらに2020年の東京パラリンピックに出場するため、走り高跳びなどにも取り組んでいるそうです。彼の夢は「障害のある方や、ケガをした方、そして子どもたちに、“夢”と“希望”をあきらめないことを伝えること」と言っています。もし、事故で障害が残った時に、すべてを諦めていたら、金メダルはもちろんですが、彼の素晴らしい夢を伝えようとする人生もありませんでした。学校で生活すること以上に、社会に出ればしんどいことに直面することがあると思います。でも、「無理」と諦めてしまったら、それで終わってしまいます。「何くそっ!」と、負けずに、目標に突き進んでください。

もう一つ、皆さんにお願いしたいのは、人の気持ちを理解しようとする人、人の気持ちを大切にすることです。人が喜んでいいる時は一緒に喜び、人が苦しんでいる時は一緒に分かち合う。「まず自分が幸せに」という人のところには、幸せはやってこないように思います。みんなが幸せであって始めて、自分も幸せの一員にいるんだなと思え、本当の幸せを感じることができるのではないのでしょうか。

スピードスケートの小平選手が、500mで優勝を決めた時、私は嬉しさがこみ上げました。でももっと感動したのは、イ・サンファ選手にとった行動です。地元のオリンピックで3連覇を目指したライバルのイ・サンファ選手が涙を流している所に駆け寄り、「よくやったね。あなたは私が尊敬する選手だ。」と伝えると、イ・サンファ選手の表情が明るくなったように感じました。イ・サンファ選手も「500mも1000mも上手く滑れるあなたが誇らしい」と伝えたそうです。ライバルではあっても、お互いに認め合う姿に感動し涙が出ました。

スキージャンプの伊藤選手の行動にも感動しました。自分自身もメダルを狙っていたのに、出場選手中最も風の条件が悪かったといわれる中で、力を出しきれず、入賞すらできませんでした。しかし、メダルが決まった高梨選手に駆け寄り、心の底から「おめでとう!」と言っていた姿を見て、素晴らしい姿だなあと感じました。自分は悔しい気持ちであっても、喜んでいいる人には、一緒になって喜ぶ。これが人として本当に大切ではないかと思えます。次のオリンピックでは、伊藤選手もメダルを取ってほしいと強く思いました。

さて、入試の合格発表、合格説明会も終わりました。新1年生が、4月から希望を持って入学してきます。皆さんはどんな気持ちだったか思い出してください。私が高砂南に来た時に、2年生の皆さんが入学しました。1年生は、昨年の入学からもうすぐ1年がたとうとしています。いろいろな場面で、皆さんは成長したなあと感じます。今日のような話を聞く態度は、入学当時は、頭が下がっている人やキョロキョロと頭が動く人もいました。それがどうでしょう。しっかりと聞いてくれます。行事では元気な姿を見せてくれました。その場、その時に応じた態度がとれる高砂南の生徒は本当に素晴らしいと思います。4月からは、新入生の手本となってください。新生高砂南が更に素晴らしい学校になることを期待して、本日の話は終わりにします。

春休み中、しっかりとした生活をして、4月には元気に登校してください。